

STAGE+を楽しむ(351)(HP 収載)

—バッハのゴルトベルク変奏曲—

1. 始めに

前報(350)に引き続き、STAGE+のバッハのゴルトベルク変奏曲の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、前報(350)に引き続きバッハのゴルトベルク変奏曲の演奏を選びました。

イム・ユンチャンが挑むバッハの《ゴルトベルク変奏曲》

カーネギー・ホール

収録日: 2025年4月25日

ニューヨークのカーネギー・ホールでの鮮烈なデビューから一年、今をときめく韓国人ピアニスト、イム・ユンチャンが音楽の殿堂に帰還し、鍵盤音楽の最高峰ともいべきバッハの《ゴルトベルク変奏曲》を披露しました。曲の冒頭と最後に置かれた安らかで美しいアリアを基礎に、バッハの見事な作曲技法が盛り込まれた30の変奏が眩いばかりに展開されるこの作品。演奏家にとっても、技術的な完璧さのみならず鋭敏な音楽的知性、感性が要求される難曲です。世界の注目を浴びる若き才能が新境地に挑んだ、音楽ファンには見逃せないコンサートでしょう。

ソリスト:

イム・ユンチャン (ピアノ)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ 《ゴルトベルク変奏曲》 BWV 988



3. 試聴の経過

前回は引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力には ABS-7777 を適用しています。

とかくバッハの曲は、重厚であったりして堅固な演奏が多いのですが、イム・ユンチャンのバッハは、軽やかで、すがすがしいバッハです。ピアノの音質も透明感があり、きれいなタッチで、こういうバッハもあるのかなという印象です。

なお、上記の収録の公開と同時にアルバムの発売と配信の公開もありましたので、こちらを試聴してみました。演奏の印象は上記と同様ですが、アルバムの方が細かいニュアンスが若干後退するようです。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+ に送り出し、PC と Brooklyn DAC+ の間には USB アキュライザーに交換した結果、イム・ユンチャンの優しいタッチで透明感のあるピアノから軽やかで、すがすがしいバッハが聴けました。

以上